神戸女学院大学

NEWS RELEASE

2026 年 9 月 24 日

報道関係者 各位

西宮市津門川における 2026 年度魚類相調査を実施

―市民・研究者・行政による継続調査で生態系の回復の歩みを確認―

神戸女学院大学（学長：中野敬一）では、永久標語「愛神愛隣」の精神に基づき、地域・社会に開かれ、ともに歩む大学として、研究の成果を地域・社会に還元できるよう日々取り組んでいます。

生命環境学部の髙橋大輔教授（保全生態学研究室）は、2026 年 10 月 3 日に、ゼミ学生や同学部が団体会員として参加する市民団体「武庫川流域圏ネットワーク（代表：遠藤知二・神戸女学院大学名誉教授)」とともに兵庫県西宮市を流れる津門川において魚類調査を行います。津門川では 2018 年と 2021 年に魚類の大量死が発生し、河川環境が不安定な状態が続いていました。そのため 2020 年 7 月から、同ネットワーク代表（当時）の山本義和・神戸女学院大学名誉教授の発案により、市民・研究者・大学生・行政が連携して継続的な生物モニタリングを実施しています。近年の調査では、回遊魚の増加や大量死以降に確認されていなかった淡水魚が再確認されており、生態系の回復が進んでいることが明らかになっています。今回の調査では、魚道整備などの保全活動の成果や、津門川で進む治水事業後の河川環境の変化を確認し、今後の保全活動の基礎となるデータの蓄積を目指します。

◎本件のポイント

- ✓ 西宮市を流れる津門川では 2018 年の水質事故による魚類の大量死以降、継続的な調査が行われており、2025 年度の調査ではアユやニホンウナギなど計 19 種の魚類が確認されました。
- ✓ 2025 年度調査では、回遊性のカワアナゴや長期間確認されていなかったコウライモロコやカマツカが再び確認され底生魚類を中心に生態系の回復が明らかとなっています。
- ✓ 本調査には市民団体、研究者、学生、行政関係者が参加し、都市河川の自然環境の再生を見守る協働型の取り組みとして継続的に実施されています。
- ✓ 津門川では地下貯留管を活用した治水事業が進められており、生物多様性保全との両立を図る都市河川のモデルケースとして注目されています。



これまでの津門川調査の様子

◎背景

津門川は兵庫県西宮市南部を流れる全長約 3.5km の都市河川です。河川の大部分がコンクリート護岸で整備されている一方、市民らによる清掃活動や自然再生事業が継続的に行われてきました。2003 年には市民からの陳情などを受け魚道や水生植物育成地が整備され、生物の生息環境の改善が進められてきました。しかし 2018 年 12 月には山陽新幹線六甲トンネル工事に起因する強アルカリ性モルタル材の流出事故が発生し、魚類の大量死が発生しました。その後も 2021 年 2 月に魚類の原因不明の大量死が発生し、河川環境が不安定な状態が続いていました。こうした状況を受け、2020 年 7 月から、市民・研究者・大学生・行政が連携して保全策の提案を目指した生物調査や環境保全活動を継続しています。

2025 年度の調査では、ニホンウナギやアユなどの計 19 種の魚類が確認されました。これらの魚種の中には川と海を回遊するハゼの仲間であるカワアナゴやヒナハゼ、津門川で長期間確認されていなかったコウライモロコやカマツカなどのコイ科の淡水魚類が再確認され、底生魚類を中心に生態系の回復のきざしが明らかとなっています。このように津門川では河川環境の回復が確認されつつありますが、地下貯留管を活用した治水事業の実施など河川環境は変化し続けており、生物多様性の保全策提案の基礎となる魚類調査は継続的な実施が必要です。今後も治水・景観・生物多様性のバランスが取れた河川環境づくりを進めるとともに、都市河川における自然再生のモデルケースとなることが期待されています。

◎調査概要

［主　　催］武庫川流域圏ネットワーク（自然環境の保全活動を目的として、14 の団体会員、70 名の個人会員で構成：神戸女学院大学 生命環境学部が団体会員として参加）
［調査場所］津門川（西宮市）
［実 施 日］2026 年 10 月 3 日（土）
［参加者］武庫川流域圏ネットワーク、神戸女学院大学 髙橋大輔教授および大学生
［対　　象］津門川に生息する魚類および河川環境
［助成］ひょうご環境創造協会 生物多様性ひょうご基金（コープこうべ・阪急阪神ホールディングス）助成事業

◎これまでの津門川での調査の様子





◎関連研究情報

山本義和，白神理平，菅澤邦明，小林登．(2020)．山陽新幹線六甲トンネル工事による水質環境汚染から 1 年経過 ～津門川（つとがわ）の自然再生に向けての取り組み～．共生のひろば，15，135-137．https://www.hitohaku.jp/publication/book/kyousei15-p135.pdf

北川哲郎，山本義和，細谷和海．(2024)．兵庫県西宮市の都市河川津門川における環境の変遷と保全活動の現況．魚類学雑誌，71(2)，257-262．https://doi.org/10.11369/jji.24-022

北川哲郎，山本義和，細谷和海，遠藤知二，白神理平，髙橋大輔，羽多宏彰，阪本義樹，菅澤邦明．(2025)．2025 年における津門川の自然再生と魚類相復活の進捗．共生のひろば，21，26-29．https://www.hitohaku.jp/publication/book/kyousei21-7-1.pdf

◎教員のコメント



津門川は、自然を身近に感じられる憩いの場として市民に親しまれてきた河川です。かつて魚類が大量死し、その種数や個体数が激減しましたが、これまでの調査から魚類相は徐々に回復していることがわかってきました。近年では、海から遡上したアユも川のいたるところで観察できます。

毎年秋に行うこの調査は、その成果が津門川の保全を考えるための基礎資料となるだけでなく、神戸女学院大学の学生にとっても大切な学びの場となっています。学生たちは、地域の方とのふれ合いを通して地域社会への理解を深めるとともに、生物の採集や観察をすることで、身近な自然環境とその保全について学んでいます。

（神戸女学院大学 生命環境学部 髙橋大輔 教授）

私はまだ、私を知らない。
神戸女学院大学

広報に関するお問い合わせ先
神戸女学院大学　広報室（担当：三枝、西原）
電話： 0798-51-8585
メール：koho@mail.kobe-c.ac.jp

津門川（つとがわ）魚類調査見学会 2026

武庫川流域圏ネットワーク主催

武庫川流域圏ネットワークは、2018年の六甲トンネル内工事中の汚染物質流出による魚類大量死事故以来、魚類の調査を続けています。
魚類調査の様子を見守りながら、ぶらぶら歩いて津門川のことを考える約2時間のイベントです。







魚類調査地点 (ST3)

魚類調査地点 (T1)

お魚の好きな市民とお話をしよう



川ゴミとオオカナダモを観察

魚類調査地点 (T2)

調査の様子と採れた生物を観察

魚類調査地点 (T3)

調査の様子と採れた生物を観察

10月3日 (土)
10時
ミニミニ水族館 北玄関 集合
(コープこうべ ゆとり生活館アミ)



メール申込み：
mukogawaken.net@gmail.com

HP：
https://muko.jimdoweb.com

途中参加もOK

見学会終了後、ST3まで調査に同行したい方はお申し出ください。

ひょうご環境創造協会 ひょうご生物多様性基金 (コープこうべ・阪急阪神ホールディングス) 助成事業